

岡山県教育委員会 殿

岡山県立興陽高等学校長
中野 功

令和5年度 岡山県立興陽高等学校 学校評価書

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 分析・改善方策

学校経営計画書の学校経営目標を5つの評価項目に分け、年度当初に各課が具体的な方策をそれぞれ設定し、10月に中間期の検証を、3月に最終の評価を行った。

学校生活での挨拶や言葉遣いなどのマナーや規範意識の定着、ICTを活用した授業改革や家庭学習時間の向上、企業見学やインターンシップによるキャリア教育の推進、SDGsの視点による環境整備・美化意識の向上等を目標に様々な取組を計画した。

コロナによる学校生活の規制も解除され、学校行事を通常に戻した。そして、体育祭・文化祭などの様々な学校行事を生徒主体で運営し、生徒の自己肯定感の醸成にも繋がった。また本年度は、造園関連二団体、岡山医療福祉専門学校とそれぞれ包括連携協定を結ぶなど、地域や企業と連携した専門学習を更に進め、地域貢献や進路実現にも成果が見られた。今後も、引き続き具体的な方策を立案・実施していく。

2 学校関係者評価委員名

池上 博道（岡山市立藤田公民館長）	岡 秀雄（玉野市公園緑化協会事務局次長）
国定 豪（本校同窓会副会長）	高橋 圭治（(株)トンボ本社 本部長）
川崎 和子（本校PTA会長）	今井 伸（藤田神社宮司）
宮本 晋一（岡山市立藤田中学校長）	上野 晃裕（(株)かがやきプランニング副社長）
八田 正枝（岡山市六区保育園長）	妹尾 健二（藤田地区民生委員児童委員協議会長）

3 学校関係者評価

地域や企業との連携がなされており、より専門的な授業が展開されている。また、就職試験対策の面接指導や国公立大学等の受験対策の進学補習等の取組が進路実績にもつながっている。更には、生徒主体で学校行事を運営したり校則の見直しを行ったりするなど、生徒の自己肯定感も高まっている。そしてそれらの活動を積極的に報道やホームページなどのSNSで情報発信をしている。これらの活動が好循環を呼び、地域からの信頼を得て、本年度の入試倍率の維持につながっていると考える。

ホームページ等での更なる情報発信に努め、今後も入試倍率の確保につなげてほしいなど、現状の方向を更に維持・発展させていくべきとの意見を多くいただいた。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

これまで取り組んできたことをさらに継続・推進し、実際に生徒が社会の変化に対応できるよう、育てたい生徒像（Graduation Policy）として「凡事徹底する力」「前に踏み出す力」「主体的に学ぶ力」「進路実現する力」「自己肯定感を高める力」の5つの力の育成を引き続き目指す。

現在、地域と連携している学びの場がより質の高い学びの場になるようにし、本校の魅力を積極的に情報発信できるようにする。

「開拓新天地 興陽なら世界が広がる 興陽しか創れない」を新たなスローガンに掲げ、地域社会に貢献できる将来のスペシャリストの育成を目指していく。